

## 大町町長 水川 一哉



### "負けずに前へ"

新年明けましておめでとうございます。  
町民の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年とは異なり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環で首都圏を中心とした2回目の「緊急事態宣言」が発出され、私たち国民の社会活動、経済活動にも少なからず影響を及ぼしました。感染者は増え続け、命を守る医療に従事される皆様への期待、そして負担が増す中、コロナ最前線での奮闘に頭が下がる思いでございました。

また8月には、中島、下瀧地区を中心に6日間で1000mmを超える記録的な大雨が降り、多くの方々が被害に遭われました。

被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。

昨年を改めて振り返って見ますと、新型コロナウイルス対応や令和元年度に続く激甚災害への対応に終始した一年でした。

新型コロナウイルス感染症予防では、町民の皆様にも3密の回避やマスクの着用、手洗い、こまめな換気などにより、自らを守り、家族や隣人を守るという意識と、コロナ禍での「新たな生活様式」を徹底していただき感謝しております。

また、希望される多くの方がコロナワクチンを接種していただくことにより、社会全体で抵抗力が高まってきたことが、様々な理由でワクチンを打てない人や望まない人、そして子どもたちの感染リスクの低減など、良い影響をもたらし、現在の感染抑止につながっているのかと思っております。

ただ、稀にはありますが、ブレイクスルーと言われる2回接種を終えた方の感染や変異株も確認されていることもあり、町内医療機関のご協力のもと、すでに3回目接種に取り組んでいるところで、今月から一般の方々にも順次3回目接種券を送付させていただくこととしております。

また、前述のとおり、昨年は令和元年災害に続き、大雨による甚大な被害が発生し、大きな衝撃を受けました。しかも被災地域は令和元年災害を超える範囲に及びました。

幸い今回の災害でも犠牲者を出すことはありませんでしたが、日頃からの町民の皆様の「自助力」、「共助力」、「地域力(絆力)」の賜物と感謝しております。

本町は、令和元年災害を教訓に、町民の皆様の命を守ることを最優先方針とし、「人命第一、逃げ遅れゼロ」を防災対策の中心に置き、元年災害復旧事業に対応しながら、「世代間の絆づくり事業」や「防災マップ」等の改訂、「防災ラジオ」、「救命ボート」の配備などにより《命を守り安心して暮らせる町》を目指してきました。

更に本年は、防災意識や自主防災組織率の向上など、ソフト事業に加え、昨年の地すべり等災害復旧への対応や下瀧排水機場等の浸水対策、排水能力の増強、貯水能力向上など、被害軽減のためのハード事業を積極的に進めて参ります。

そして、令和元年災害を踏まえ、国と県が連携して行う「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」いわゆる激特事業や、県が主導する「内水対策プロジェクト」との三位一体となった治水対策を進め、流域市町が連